

中部経済同友会 会員アンケート『1000人の声』(第4回)

『働き方改革』に関するアンケート調査

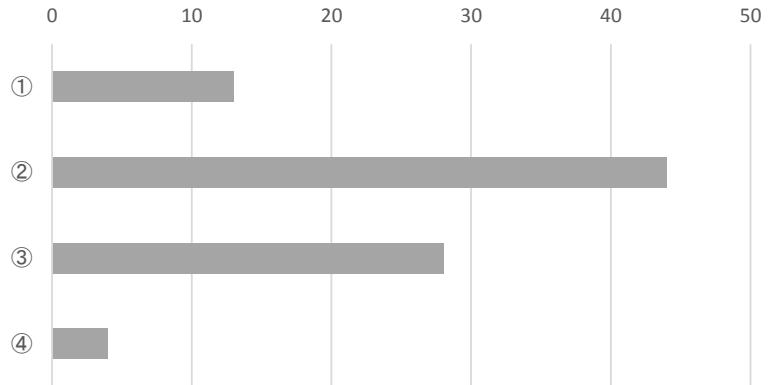
2017年10月6日～13日 WEBアンケートにて実施

回答数=89名

◆設問1

現在の貴社の「働き方」は  
貴社の社員に受け入れ続けられると思われるか

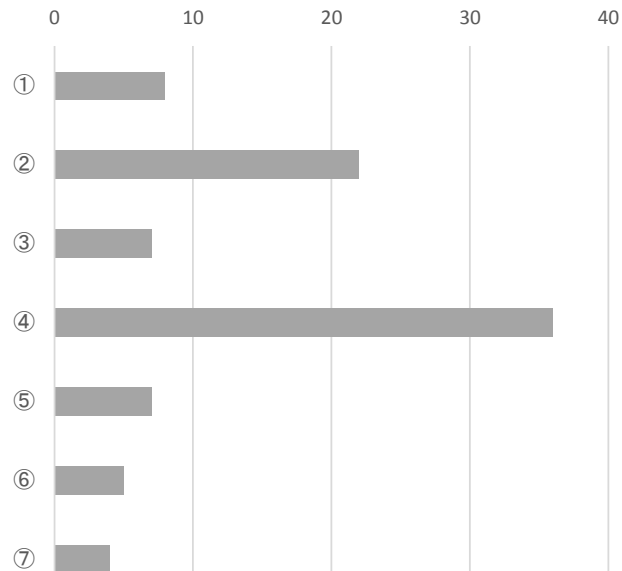
①	現在も、将来的にも問題ない	13
②	現在は問題ないが、将来的には受け入れられなくなる	44
③	現在も(若手など)一部に受け入れられなくなっている	28
④	現在も多くの社員に受け入れられていない	4



◆設問2

貴社の現在の「働き方」における  
経営者から見た最大の問題点は何か

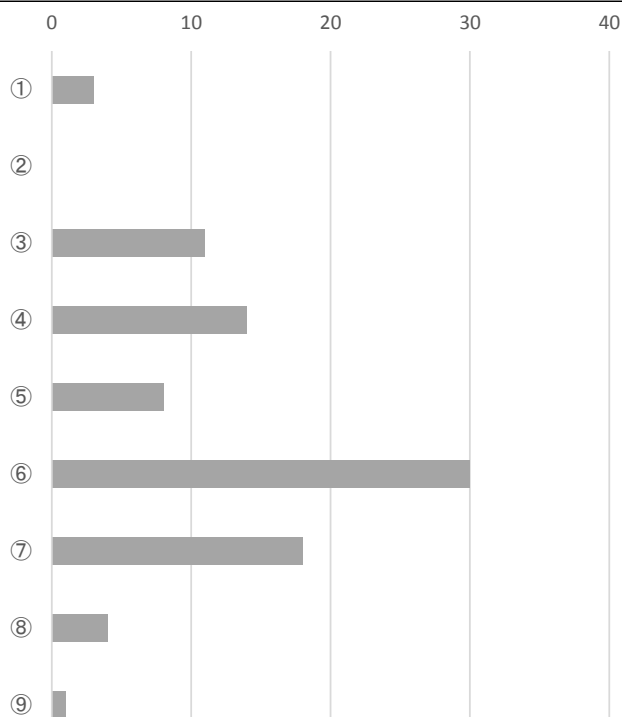
①	社員の労働時間の長さ	8
②	社員にとっての労働時間の予測性のなさ(急な残業、休暇が取りにくいなど)	22
③	(上記の影響も含めた)社員の疲弊	7
④	成果・アウトプットに対する労働時間の長さ、生産性の低さ	36
⑤	集中的に仕事に打ち込むことの難しさ(一律の残業規制など)	7
⑥	その他	5
⑦	特に問題はない	4



◆設問3

貴社における「働き方」の問題点を解消するために、  
どのような「改革」を行うことが効果的か

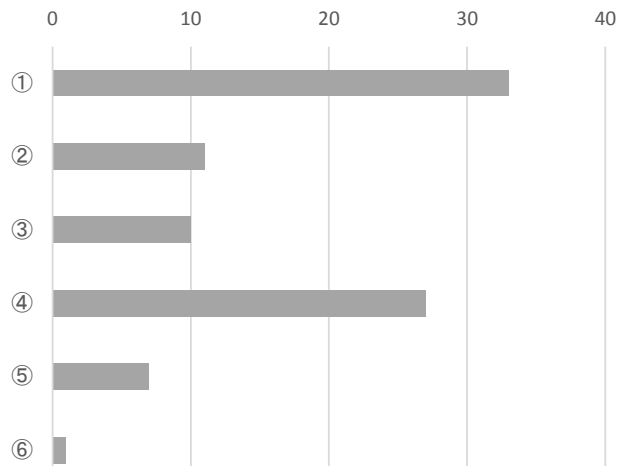
①	労働時間、残業時間の上限規制の導入	3
②	次の出勤までのインターバル制の導入	0
③	在宅勤務や短時間勤務などの柔軟な働き方の導入	11
④	裁量労働的な時間管理(高度プロフェッショナル制度など)の導入	14
⑤	インセンティブ体系(昇進、報酬など)の成果・アウトプット連動への変更	8
⑥	マネジメント(社員への指示、指導など)のやり方の変革	30
⑦	ITシステムなど業務サポート、自動化インフラの徹底活用	18
⑧	その他	4
⑨	何をやっても難しい	1



◆設問4

貴社が「働き方改革」を行う場合  
その目的として最も重要視するものはどれか

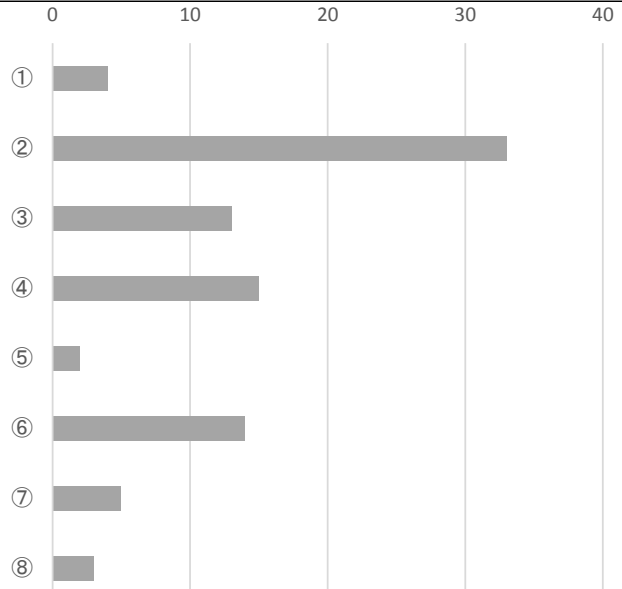
① 社員の生産性の向上	33
② 社員の健康など、安全衛生管理	11
③ 優秀な人材の獲得	10
④ 社員の勤務意欲の向上	27
⑤ 介護や育児を抱える社員への柔軟な勤務体制の整備	7
⑥ その他	1



◆設問5

貴社の(特にホワイトカラーの)「生産性」を上げるための  
障害となっているものは何か

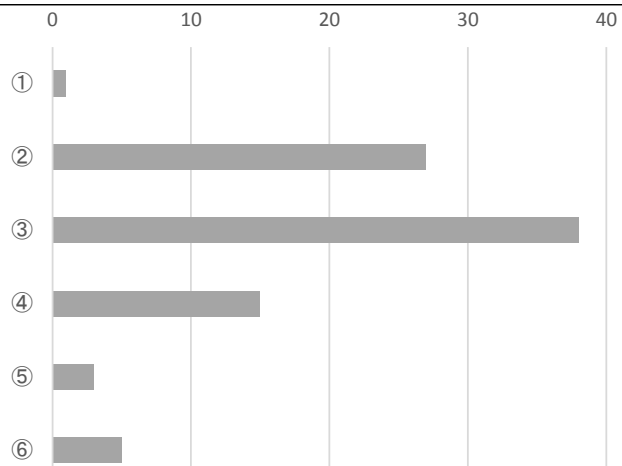
① 長時間労働を評価する雰囲気、慣習	4
② 管理職層のマネジメント能力(指示、指導など)の弱さ	33
③ 業務自体の難易度の向上(相対的な社員能力の低下)	13
④ 縦割り、ルール過多による固定的な働き方	15
⑤ 残業代に対する社員のこだわり	2
⑥ 顧客の要求(短納期、突然の変更 など)	14
⑦ ITシステムなどの業務を支えるインフラの貧弱さ	5
⑧ その他	3



◆設問6

貴社の「生産性」を上げるために  
どのような打ち手が効果的か

① 労働時間の上限設定、休暇の強制取得などによる投入時間の縛り	1
② 業務の自動化、単純業務のアウトソースなどによる業務負荷の軽減	27
③ マネジメント層の育成などによる社員マネジメントの質の向上	38
④ 社員教育などによる社員能力の向上	15
⑤ その他	3
⑥ 効果的な打ち手は思い付かない	5



◆設問7

現在検討されている「働き方」改革に向けた  
労働法制の変更についてどのように考えるか

① 「働き方」の問題解消への抜本的な打ち手になると期待している	1
② 「働き方」の問題解消への改革の第一歩として期待している	49
③ 期待していないが社会的要請として止むを得ないと考えている	20
④ 縛りが増えることで更なる問題につながると懸念している	17
⑤ 興味がない	0
⑥ その他	2

